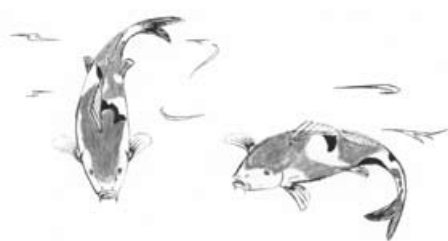

慈 恵



令和 2 年 No.72

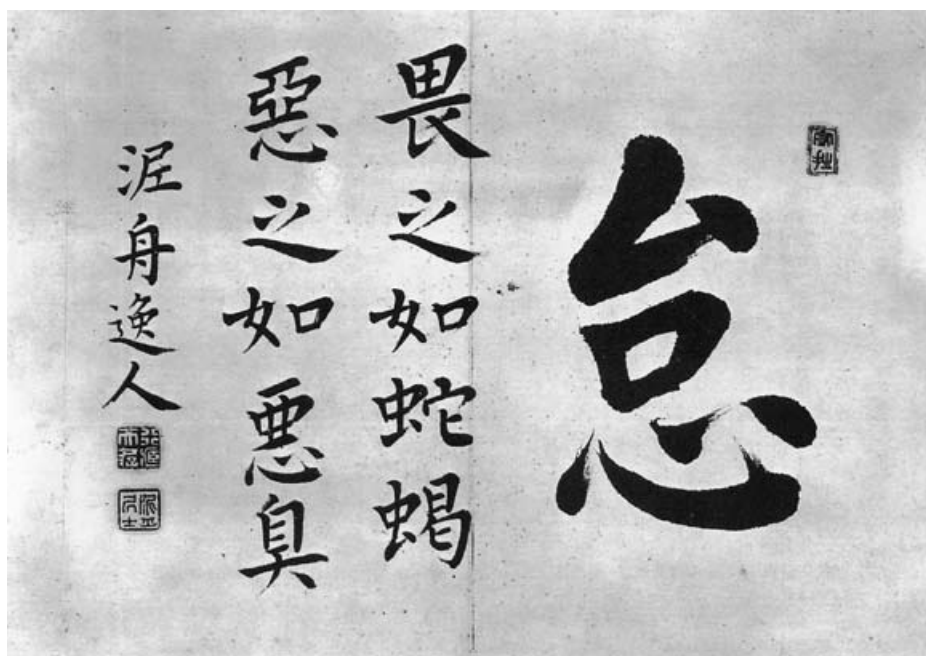
秋



宗教法人 慈 恵 院

付属 多摩犬猫霊園

鑑賞



怠

之^{おそ}を畏^{おそ}るること蛇^だ蝎^{かつ}の如く、之^{にく}を惡^{にく}むこと

惡臭の如し

泥舟逸人

高橋 泥舟^{でいしゅう}

幕末の幕臣。槍術に秀で、国事に通じ、講武所教授となり、一八六三年（文久三）新徴組を統率。鳥羽伏見の戦後、恭順謹慎説を主張。江戸城明渡し後は徳川慶喜を護衛。山岡鉄舟・勝海舟と共に幕末三舟と称。（一八三五一—一九〇三）

あかんべえー

和尚は、つねに「大寺肉山は野狐窟だ」といって大刹に住職することを嫌った。

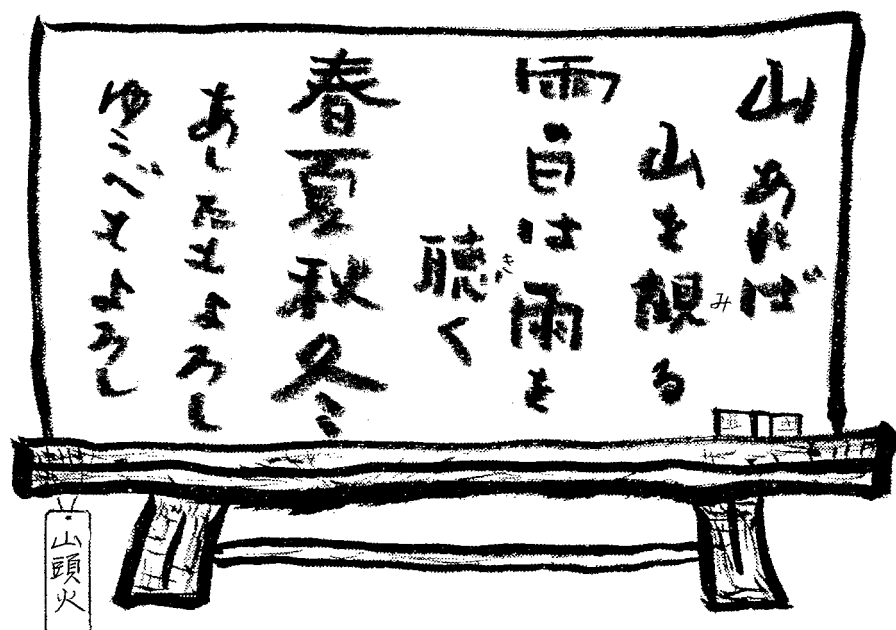
ある時、高松藩の家老が藩主の命を奉じて和尚のところに来て、ある名刹に住するよう、はなはだ札を厚くして請うてきた。和尚は平素の持論を主張して、一言の下に拒絶した。しかし、家老は主命とあつて再三懇請して止まなかった。すると和尚、やにわに「あかんべえー」とやった。家老は度胆を抜かれ、呆然として去った。

「禅門逸話集成」より

ふう がい ほん こう
風 外 本 高 (二七七九〜一八四七)

曹洞宗。伊勢の人。宇治興聖寺の玄楼奥龍に法を嗣ぐ。大阪の円通寺、愛知の香積寺に住した。のち大阪の烏鵲楼に隠棲したが、請われて兵庫円通院、出雲徳林寺の開山となった。書画に堪能で「蛸風外」「猫和尚」などと称された。

掲 示 板





闘い抜いた猫

東久留米市

片岡 由紀枝 (54)

ベランダに子猫が二匹住みついたので、いずれ去勢手術をして、地域猫として見守るつもりだった。

夏の暑い日が続き、一匹の姿が数日見えない。もう一匹はいる。前の家が工事をしていたので、不安は的中。夜になると、閉め切られた工事中の家から鳴き声が聞こえる。工事関係者に来てもらい、僅かな隙間か

ら救出。先住猫がいるが、二匹共家の中で生活する事になった。

そんな中、保護前にベランダでグッタリしていたチャトラ猫のチャコ二郎の様子が急変。すぐ病院に連れて行き、色々検査をしてもらった。

胆管肝炎と判明して、入院や手術。その後も一進一退をくり返す中、他の病気を併発。口内炎や腎臓病と、亡くなる迄の四年間、入院退院をくり返し、頑張ったチャコ二郎。

最後の二カ月は、一週間に二、三回の点滴を受けに通い、突然全く食べなく

だったので色々な缶詰を買っては出していたが、食べてくれない。私も心配で眠れない日々だった。

ある朝、クローゼットの中に隠れて寝ていたチャコ二郎が、叫び声の様な声を上げ、見るとぐったりしていた。歩く事もできず、初めておもらしをしていて、体をふいて抱きしめた時涙が止まらなかった。

入院中に急変して他界してしまったが、本当によく闘い抜いたと思う。

あの叫び声に似た鳴き声は、最後に私達に「ありがとう」と、言ってくれたのだろう……。

慈恵院から猫のお山へ。

辛い肉体から離れ、お山で楽しく暮している事を信じて。

猫だけど

フーテンの寅さん

西東京市 水谷 美里 (50)

私の実家は東京都内とは言え都心から離れており、近くには畑もあるような閑静な住宅街に位置していました。幼少の頃は野良犬や野良猫が頻繁に出没し、庭をトイレ代わりにする不届き者も多くおり、野良猫を拾ったという話をたびたび耳にしました。近年、野良犬はまったく見当たらず、野良猫もほとんど目にする

ことはなくなりました。

そんな折に出会ったのが野良猫の「フーテン」です。いつのころからかはつきりとは思いませんが夕方になると時々猫の鳴き声になると時々猫の鳴き声が聞こえてくるようになりました。最初は威嚇しあうような鳴き声だったので猫同士で喧嘩でもしているのだらうと思ってそれ以上気にも留めませんでした。そのうち一匹の猫が庭を通りがかったり、佇んでいたりする姿を目にするようになりました。しかめたような厳めしい顔をしたキジトラでお団子のような丸い尻尾が特徴的でした。たびたび

見かけるので家族の間ではまるでフーテンの寅さんみたいだねと話しており、いつの間にかフーテンのフーちゃんと呼び始めました。

フーちゃんは私達家族が庭に出ても逃げ出したり、唸ったりせずそこにいました。ある日試しに以前飼っていた猫が使っていたご飯茶碗に残っていたキャットフードを開けて庭先に置いておくと次の日にはきれいになくなっていました。それから交流が始まりました。朝と夕方、一日2回決まった時間帯に庭先に佇み、ご飯を出すのが遅くなると鳴いて催促するよ

うになりました。私達家族がご飯茶碗を持って手招きをするとう悠然とした足取りで近づいて来てすぐ傍でご飯を食べるようになりました。試しに手を伸ばして撫でてみても嫌がるそぶりも見せず、そのまま食べ続けていました。私の手から直接ご飯を食べることもあり、野良猫にしては警戒心が薄かったです。捕まえるのも容易で、キャリーバックの中でも暴れることもなく大人しくしていました。獣医さん曰く、10歳くらいの女の子で健康状態も良好とのことでした。その日から我が家の家族の一員に

なりました。女の子なのにフーテンの寅さんからの名付けは可哀そうかなと思いましたが、私達家族の間ではすでにフーテンのフーちゃんだったので、ずっとフーちゃんのままでした。元野良猫なので私達家族に馴染んでくれるか心配でしたが、生まれたころから我が家にいたかのようにリビングの真ん中で伸びている姿に何度も癒されました。フーちゃんと過ごしたのは6年でした。私達家族にとってはあつという間の時間でした。最後は私達家族に見守られながら去年旅立ちました。